

シャイン

— 受講のきっかけと今 —

シャイン 017号

話を聴くことの難しさと嬉しさ

小川 良さん

職業：個人事業主（相談職）

資格：産業カウンセラー



【受講のきっかけ】

私は、60歳の定年後にはそれ迄の仕事とは全く違うことをやってみたいと思っていましたが、とは言え何が出来るのが全く分からずにいました。退職半年前のライフプランセミナーでの講師の方の話で「ああそうか、そう考えれば良いのか」と合点が行き、「迷える者に道を示す（少し大げさですか？）」講師になりたいと思いました。すぐに講師派遣会社に連絡を取り、講師になるには？と尋ねましたところ「色々な資格が必要ですが、出来れば産業カウンセラーは取ってください」と言われました。家に戻りすぐに養成講座を探し出し、あと数日で締め切りというギリギリのところまで申込みました。その時、産業カウンセラーとは何なのか、どうして講師に産業カウンセラーが必要なのか分かっておりませんでした。兎に角7か月の養成講座が始まりました。

【資格取得後の活動状況】

早いものでそれから5年が経ちました。障害者の方たちの就労支援を行うNPO法人で利用者の方たちの話を聴かせて頂いて3年になります。ファイナンシャルプランナーとして無料相談会で相談者の方たちのお話をお伺いする際にも、大学生や高校生の進路相談をお受けする際にも産業カウンセラーとしての聴く姿勢、傾聴が役立っています。

私には92歳になる母親が高齢者向け住宅で元気にいてくれて、母の気持ち、母の喋りたいことに気持ちを寄せて聴いています。更に、夫婦関係にも役立っていると信じています。普段は家内に対して「傾聴」は難しいものですが、何か疲れているかな？何かあるな？と感じた時には、まず私自身心を落ち着かせ「傾聴体制」に入ります。結果は…やはり何かありますが、話を聴いていく中でほぐれていくことが殆どです。

私の場合、産業カウンセラーが何たるかも分からずに始めたものの、現在では生活のあらゆる場面において、学んだことに助けてもらっています。何故産業カウンセラーの力が講師に必要なのか少しだけ分かったつもりで、今日も仕事に行ってまいります。

人の話を聴くことの難しさと、相手の方と少しでも気持ちが近づいたかなと思えた時の嬉しさ。産業カウンセラー養成講座で学ばせて頂いたお陰だと思っております。

